

## 1 開会

事務局：定刻となりましたので、ただ今から、平成30年度第3回京田辺市子ども・子育て会議を開催いたします。

## 2 会長あいさつ

会長：会議の開会にあたり、あいさつを行った。

## 3 議題

### (1) 第2期京田辺市子ども・子育て支援事業計画の策定における子ども・子育て支援に関するニーズ調査の実施について

説明員：資料3・4・5・6・7に基づき説明をした。

資料3の調査の実施概要については、スケジュールが決まった。

1月10日から調査票の配布を始め、1月24日にお礼状と督促状を発送する。調査票の締め切りは2月1日としている。

3月中旬に、子ども・子育て会議を開催して調査結果の報告、年度内に報告書の発行としている。

資料4で調査設問の設定についての構造を表している。前回の会議で説明したとおり、国の必須、府の独自は必ず聞くことになる。市の単独は、市の考えのもと設定ができる。モデルとして示されている任意事項を含め、設問項目が決まる。

今回の調査票は、市民ニーズの経年変化を見るため、基本、前回調査項目と同じとする。ただし、国・府・市からの追加項目等には対応することとする。

資料5は、今回の調査票で主な新設・修正等をさせていただいたいる分の一覧となる。「国必須」「府独自」「市単独」で分けている。国から2点追加がきているが対応する。府からは8点追加等がきているが対応する。

市は7点追加等をする。前回の会議で指摘のあった事項等についても対応している。

子どもの貧困については、小学生向け、就学前児童向けとも4つの設問を追加している。

女性の社会進出は、府が関連する調査事項を追加してきたので、

十分ニーズを知ることができると判断して、市単独での追加はしない。

現段階で調査票は、資料6が小学生向け、資料7が就学前児童向けとなっている。

委 員：資料3の調査の内容の調査方法だが、小学校の保護者に、公立小学校に通う児童は直接配布、その他の児童は郵送となっているが、直接配布はどのような形で配布されるのか。

説明員：前回の調査と同じように、校長会に説明をした後、所属する小学校ごとに分けて、学校へ持参させていただき、配布をお願いする考えを持っている。

委 員：封筒には児童名が書いてあるのか。

説明員：子どもさんの宛名が書かれている。来月の校長会で説明をする。

会 長：郵送よりは効果があるのか。

説明員：直接配布の方が回収率は高いと思っているが、きちんとした根拠はない。時期的に年賀状の集配もあり、1日で3000部の配布ができないこと、また、送料のこともある。

委 員：大きな小学校だと100人以上となると思う。児童名だけとなると学年ごと・クラスごとに振り分け作業が必要となってくる。年始早々の対応が必要となってくるので、学年に分けるなど渡しやすくしていただければありがたい。

説明員：事務局では学年ごとに分けることができると思っている。クラスごとの名簿がないので、校長会で相談をさせていただく。

委 員：無作為抽出方法はどのような方法なのか。

説明員：北部・中部・南部ごとに分けて、子ども数を考慮して、抽出していく。

委 員：パソコンで出てくるのか。抽選棒なのか。

説明員：抽出条件だけ入れ、ボタンを押せばデータで打ち出される。

会 長：条件はどのようなものか。経済上の階層ごとの条件も入れるのか。

説明員：そのような条件には触れない。対象者の少ないところに多く抽出されないように、均等に抽出されるように指示をしている。

委 員：抽出が偏らないようにと思っていたが、今の説明でいいと思う。

委 員：回収については、施設回収するのか、郵送なのか。

説明員：返信用の封筒は、調査を依頼する封筒に入れているので郵送で回収する。ただ、前回も施設を通じて送付をしていると、どうしても施設に持つてこられる方がいらっしゃるので、各施設でお受けいただき、その後、市役所へ届けていただきたい。

委 員：前回の回収率は何パーセントでしたか。

説明員：約 68 パーセント。

委 員：前回、抽出され直接送られてきて、直接送り返したのですが、今回、何人かの友達に聞いたり、質問票を見せた友達もいるが、今のところ回収率は 0 パーセント。

なぜ、0 パーセントというと、個人の情報が結構多いので、個人の情報を提供してでもと。でも、友達は学校経由で依頼があれば、回答するかなと。学校から来たら出さないといけないかなと。

委 員：アンケート結果を基に改善されたという具体的な結果が見えたら、いいのかなと思います。表表紙の裏にでも掲載すれば。

会 長：いいと思う。「自分たちのアンケートがこういうふうに活かされています。」「前のアンケートによって、こんなことが改善されました。」と目に見えないと、答えてあげようかなとの気にはならない。そんな工夫ってありますか。

説明員：現在、計画が動いている途中ですので、動いているものはなかなか見えない。具体的に動いているものがありますので、スペースがありましたら掲載できるのではなかと思う。時間がないが考えていきたい。

会 長：2・3 行でもいいので、それがあるとアピールできる。

委 員：就学前調査問 1 1 「ご家庭の現在の暮らしの状況をどのように感じておられますか」ですが、経済的なことを聞いているのか、何を聞いているのかわからない。同問 1 3 で「経済的なこと」「精神的なこと」「人間関係なこと」が出てくるので順番を変えるか、もう少し設間に説明を入れればと思う。

説明員：就学前調査問 1 1 ~ 1 4 は子ども貧困の関係で、今回、新たに設定させていただいた設問となる。設間に見出しがないので、同問 1 1だけを読んでしまうと「何についてしんどいのか」が少し不鮮明だと感じる。案として入れ替えをとの声もあったが、同問 1

1に「経済的な」を挿入することで、回答がぶれないようにすることも可能と考えている。事務局方で少し預からせていただき、対応させていただきたい。

会長：クロス集計をすると思うが、この設問でニーズが取れるか危惧をする。もう少し貧困と虐待家庭を掛け合わせるなら、「通常のゆとり」とか「教育にかけるお金で苦しい」とかを追加すると、もう少し正確に拾えるかなと思う。

個人の情報もあり、ここまで聞くのか。バランスが難しい。

説明員：対応はさせていただく。

委員：小学生調査問20－3「学校に行くのが楽しそうですか」ですが、不登校や家庭で学習をさせている人もいるので、回答の「8. わからない」に記載欄を設ければ。

説明員：ご指摘のとおりと考えるので、「8. わからない」に記載欄を設けるのか、「9. その他」を設けるのか、検討させていただきたい。

会長：就学前調査問32－3は何を想定して設問としているのか。

説明員：「保育園を通っている方でも、実際は幼稚園を希望する方がおられるのではないか」ということで、国が設問の設定をしてきている。現在の支援事業計画をまとめると、「2号認定であっても教育希望が強い方」というまとめを行っている。その関係での設問。

会長：保護者が幼稚園に対して何を希望するのか。何が欠けているのか。  
その一歩先を。

説明員：就学前調査問32－1、問32－2で公立幼稚園の希望、私立幼稚園の希望の設問があるので、これで読み取れるのかどうかを含め、検討したい。

委員：小学生向け問14の選択肢2で「寮や下宿のようなところ」がある。どういう想定なのか。

説明員：削除します。

委員：就学前調査問32－3の設問で「預かり保育を定期的に利用」とあるが、一時利用もあるので、削除すれば。

説明員：そのように対応させていただく。

会長：就学前調査問55は、ざっくり全般的に聞いているのでいいのか。

説明員：そのとおり。子育て全般についての満足度を聞いている。

会長：前回の調査にもあったのか。

説明員：国モデルの設問だが、前回の調査では欠落していた。

委員：就学前調査問36の「子育て応援ガイドブック」や同問57「子育て雑誌・育児書」について、どこから入手したいのかを合わせて聞けば。

会長：学生がアルプラでアルバイトをしている。その時に、子育て関係の問合せをよく聞かれると。どこで情報を入手したいのか、を聞いてみるのはいいことだと思う。

説明員：市にはフリーペーパーを含め送付されてくる。それを子育て支援センター等で配布している。また、「子育て応援ガイドブック」は本市が発行しているもの。子育て会議の意見をいただき、ようやく発刊できたもの。前向きに検討する。

会長：この調査票と一緒に、子育て応援ガイドブックを配布するのはどうか。なかなか、取りに来てくれない。調査票に書けば。

説明員：前回の会議で「用語集」を載せればどうかとの意見をいただいている。調査票のレイアウトが決まれば、余白で対応させていただきたいと考えている。

委員：アルプラザに「市女性交流支援ルーム」があって、たくさんの情報やチラシがある。そこにそういうものがあることを市民知られていない。

会長：あとは事務局で一任として、進めていただきたい。

## (2) 次年度に向けた新たな子育て支援に係る事業等について

説明員：前回の子ども・子育て会議で時間切れとなった件。みなさんから来年度の子育てに係る事業のアイディアを聞かせて欲しい。これが予算化され事業化するのは別の話し。日ごろ、思われていることを教えて欲しい。

委員：長岡市で小学生を対象に、命の大切さを学ぶということで、赤ちゃんと触れ合う事業を行っている。兄弟が少ない状況で、プラスアルファーとして、授業の中で。

会長：小学校は「保幼小連携」でやっているけど、乳児と触れ合うのは難しいところ。中学校は職場体験で保育所に行ったりしている。

委 員：充実を

委 員：地域子育て支援センター大住保育園がなくなって、北部地域で家の子育てをされているお母さんが気楽に行ける場所がなくなった。大住児童館は充実しているが、大住児童館に行くバス便が少ない。

田辺地区の新市街地にできれば、京田辺駅前なのでそろそろいい。便利なところに、親子で遊べる施設もプラスできればと思っている。

会 長：孤立している親子もいる。

委 員：保育園の充実も大事だけど、幼稚園行くまでの子どもを育てているお母さんをフォローでき、相談できるものが増えたらいいな。

会 長：社会福祉センターでの事業も回数が増えると聞いている。

委 員：社会福祉センターの行くことが大変。

委 員：民生委員さんのサロンがとうちくであった。

委 員：今は、各地区の公民館でやっている。地区によっては毎月でないところもある。

会 長：空間が大切。お母さんも友達ができる。

会 長：案内はどうしているのか。

委 員：回覧板や掲示板とか。広報紙に載せてもらったり。

委 員：幼稚園の職員も様子を見に行っている。参加者が1人だけの時もあった。その方は毎回、来られていると。

委 員：自治会も一緒にやってもらっている。

委 員：サークルに元気がない。活動している数も減っている。同志社山手は子どもが多くて逆に大変。年齢で分けられている。社会福祉センターで場を作っているが、交通の便が悪い。サークル活動には良さがあると思うので支援を続けている。12月にサークルリーダー交流会があるが、リーダーの悩みを聞いていると「市の協力・支援を拡充していただきたい」と。もう少し考えていただけたら。難しいと返事をいただいたことがある。

自分たちで子育てをしていきたくて、ご近所の方々が集まってサークルを立ち上げていただけたら。草内地区のサークルがゼロ。せせらぎではサークル活動をされているが、子育てサークルはな

い。子育てひろばが小学校区に一つできればいいと思う。

会長：2人集まつたらサークル。気軽がいいかもしれない。市から援助があつたりとか、講師を派遣していただくとか。どう市が応援していくのか。

委員：京都新聞助成金を申請される方が多いが、災害が起これば額が削られる。それを期待して予算を組んでしまうと、足らなくなる。

会長：高額でなくても市の方で。やってやろうと思われる方もいるかも。

委員：普賢寺打田に在住。おじいちゃん、おばあちゃんばかり。子どもは数人。年数回、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に子どもと触れ合うイベントがある。地域内で集う日を設定したら元気になれるし楽しみ。今年、クリスマスツリーを作ろうとの案がでていて、打田にクリスマスツリーができる。

会長：夜はイルミネーション。地域の防犯にもなる。地域の宣伝もいいかも。

委員：交流の主体はどこがしているのか。

委員：区の婦人会が行っている。

説明員：子ども居場所づくり事業に関する補助金がある。2万円上限で。相談をいただければ。

会長：知らないことがたくさんある。みんなが情報を得ていくといいこともないので。母親支援も大切。

### (3) その他について

委員：現在の待機児童数は。

説明員：今、現在は、25人前後ぐらい。

次年度の入所受付を終えたところ。年度当初には、待機児童を出さないようにが第一前提。それに向かって、入所調整を行っている。来年4月にこども園が開園するので、受け皿が増える。

委員：年齢は。

説明員：例年、乳児枠が厳しい傾向がある。

会長：課題は場所なのか、保育士なのか。

説明員：年度当初にゼロを目指すと年度途中は厳しくなる。他の自治体も同じと思う。新年度になるとすべてリセットされる。

委員：保育士が急に辞めて待機児童がでた。今、働いている保育士に意

向は聞いているのか。

説明員：毎年早い目に、職員課が来年度も更新するかどうかを聞いている。

また、29年度から処遇改善を努めている。

会長：どの時期に聞くのか。

説明員：12月に入ればすぐに。

#### 4 その他

事務局：次回の会議は、平成31年3月を予定している。日時・場所が決まれば通知をする。

#### 5 閉会

事務局：本日の議事はすべて終了しました。これで、平成30年度第3回京田辺市子ども・子育て会議を閉会します。